

科目ナンバリング		U-LAS06 10008 LJ43							
授業科目名 <英訳>	経済学II Economics II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 大黒 弘慈				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	法・政治・経済(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	月2/月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>[授業の概要・目的]</b>									
<p>規格化された経済学をそのまま祖述するのではなく、経済学の歴史を、おもに貨幣という視角から通覧することによって、経済学への導入を図る。経済学の歴史を通覧すると、マルクス経済学と近代経済学の2つだけでなく、学派の数だけ3つも4つも、あるいはそれ以上に理論が存在することを思い知るであろう。しかしこのことは、理論が時代と地域の特殊性に制約されるという、ありふれた相対主義を意味するわけではない。この講義では、経済学の隣接諸分野をも射程に入れて、異分野にまたがる初学者を経済学に導き入れる工夫をする。それと同時に、経済学のあらたな対立軸を模索することを試みたいと思う。後期の経済学IIでは、重商主義と古典派経済学を歴史上一回限りのものと見なすのではなく、両者の対立が現代にも持ち越されているという視角から、現代社会の問題を探っていく。</p>									
<b>[到達目標]</b>									
<p>経済思想の歴史を、単線的に進歩していくものと見なしたり、逆に各時代の思想の相対的独立性のみに目を奪われるのではなく、過去の要素が独自に読み替えられながら、現代にまで持ち越されるという点に留意して見直してみる。経済学IIではおもに、貨幣をめぐる対立的見解を軸に、資本主義の本質を探ることを目指す。</p>									
<b>[授業計画と内容]</b>									
<p>以下のようなテーマについて、各1～2回で考察する。</p>									
<p>1. 重商主義から古典派へ  ヒューム  (貨幣数量説と連続的影響説の関係を説く)  スチュアート  (貨幣数量説批判と為政者の意義について説く)  重農主義  (自然の支配と啓蒙専制主義について説く)</p>									
<p>2. 古典派経済学と貨幣数量説  スミス  (富と徳の関係について検討する)  リカード  (貨幣数量説と自動調整機構について説く)  通貨論争  (ソントンや地金論争と比較しながら説く)</p>									
<p>3. マルクスの「経済学批判」  価値形態論  (売買の非対称性を説く)  信用創造論</p>									
----- 経済学II(2)へ続く -----									

## 経済学II(2)

(貨幣資本と現実資本の関係を検討する)  
中央銀行とバジヨット  
(準備金の意義を検討する)

### 4. 貨幣的経済理論の系譜

北欧学派

(利子間隔説を検討する)

オーストリア学派

(貨幣の譲渡可能性、貨幣の非国有化などを検討する)

ケインズ

(流動性選好、ルールと裁量について説く)

なお、必ずしも上記計画通り進まない場合がある。  
(授業回数はフィードバックを含め全15回とする)

### 【履修要件】

経済学 (大黒担当) の連続した履修が望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

後期試験の成績による。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

大黒弘慈 『模倣と権力の経済学：貨幣の価値を変えよ（思想史篇）』（岩波書店）ISBN:978-4000253208

大黒弘慈 『マルクスと賃金づくりたち：貨幣の価値を変えよ（理論篇）』（岩波書店）ISBN:978-4000253215

その他、授業中に適宜紹介する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

比較的早い時期に、経済学史を通覧した簡便な本を通読しておくことが望ましい。経済学史上の古典を一つ選び、講義の進行とともに読み進めると学習効果が上がる。

### 【その他（オフィスアワー等）】

詳細な授業計画を、初回に配布する予定である。

### 【主要授業科目（学部・学科名）】